

平成 29 年度

## (言語聴覚学科) 入学試験問題

### 教養 (国語・数学)

試 験 時 間

10 : 55 ~ 12 : 10

(注意)

- 1 係員の指示があるまで、問題用紙及び解答用紙に触れないで下さい。
- 2 問題は 2 頁～26 頁に印刷されています。
- 3 解答用紙に氏名、受験番号及び受験科目名を記入して下さい。
- 4 解答方法は次のとおりです。

例 [1] 埼玉県 of 県庁所在地として、正しいのはどれか。

① 前橋市 ② 甲府市 ③ さいたま市 ④ 横浜市 ⑤ 千葉市

[2] 次の計算をせよ。

(1)  $1+3=$   (2)  $10+2=$

[1] の正答は「③ さいたま市」ですから解答用紙の解答番号 1 の横に並んでいるマーク欄の中の「③」を鉛筆またはシャープペンシルで「●」のように塗りつぶして下さい。

[2] の(1)の正答は  $1+3=$ 「4」ですから解答用紙の解答番号 2 の横に並んでいるマーク欄の中の「④」を鉛筆またはシャープペンシルで「●」のように塗りつぶして下さい。

(2)の正答は  $10+2=$ 「12」ですから解答用紙の解答番号 3 の横に並んでいるマーク欄は「①」を、解答番号 4 の横に並んでいるマーク欄は「②」を鉛筆またはシャープペンシルで「●」のように塗りつぶして下さい。

- 5 机の上には鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、時計 (計算機能のついていないものに限る)、受験票以外は置かないで下さい。
- 6 受験票は番号札の手前に置いて下さい。
- 7 マスクを着用している者は、試験官が本人を確認する間、マスクを外して下さい。
- 8 ハンカチ、ティッシュペーパーを使用する者は、静かに挙手をして、係員の指示に従って下さい。
- 9 試験中に気分が悪くなったり、トイレへ行きたくなくなった者は静かに挙手をして、係員の指示に従って下さい。
- 10 試験問題に関する質問は一切受け付けません。
- 11 途中で退室する者は、解答用紙を机の上に置き、静かに挙手をして、係員の指示に従って退出して下さい。ただし、試験開始後 30 分間及び試験終了前 10 分間の退出は認められません。
- 12 試験終了後、試験問題は持ち帰って結構です。

## 国語

〔1〕 次の各問に答えよ。  ～

問1 次の各文のカタカナを漢字に直した時に、問題文の下線部と同じ漢字を用いるものを、①～⑤より1つ選べ。

その戦いは両者譲らず、ゴカクであった。

- ① ハカクの値段で譲ってもらった。
- ② 相手をイカクする。
- ③ 隊長に任命されると早くもトウカクを現した。
- ④ 陸の孤島としてカクゼツされてきた。
- ⑤ 文化祭で学校のエンカクを発表する。

問2 次の意味を持つ四字熟語を、①～⑤より1つ選べ。

見かけ倒しで、実質がともなわないこと。

- ① 二束三文
- ② 空中楼閣
- ③ 竜頭蛇尾
- ④ 美辞麗句
- ⑤ 羊頭狗肉

問3 次の各文の下線部のうち、敬語の使い方として誤っているものを、①～⑤より1つ選べ。

- ① 先生が会場にいらっしゃった。
- ② 明日、先生が我が家に伺うそうだ。
- ③ 貴重な意見を拝聴する。
- ④ お客さまに差し上げた。
- ⑤ 先生にお礼を申し上げた。

問4 次に挙げた慣用句とその意味の組合せが適切なものを、①～⑤より1つ選べ。

4

- ① 気が引ける — やる気が失せてしまうこと。
- ② 口を割る — 隠していたことが露呈すること。
- ③ 首に縄を付ける — 嫌がる人を無理に連れて行こうとすること。
- ④ 手ぐすね引く — 自分の力ではどうてい及ばないこと。
- ⑤ 水を差す — ひいきにして後援すること。

問5 次の各文の下線部のうち、副詞であるものを、①～⑤より1つ選べ。

5

- ① 駅まではかなり遠い。
- ② 川が静かに流れる。
- ③ ブランコが小さく揺れる。
- ④ 穏やかに微笑む。
- ⑤ 花が美しく咲く。

〔2〕次の文章を読んで、後の問に答えよ。 6 ～ 10

「心」という概念が発明されたのは歴史的にはかなり最近のことだそうです。紀元前五世紀ぐらいに、人類はわれわれが今使っているような意味での「心」という概念を獲得したのだということを能楽師の安田登さんに教えていただきました。それ以前は心という概念は存在しなかった。確かにジュリアン・ジェインズの『神々の沈黙』やスティーヴン・ミズンの『心の先史時代』のような進化心理学の本を読むと、古代人の意識のありようは現代人とはだいぶ違っていたものようです。そして、あるときに「心」という概念が生まれて、今の僕たちの心性に近いものが出現してきた。

- A でも、これは前後の文脈からするとおかしいんです。「五十にして天命を知る」わけですから、四十歳ではまだ自分がどちらに向かっているのか、はっきりわかっているわけじゃない。「惑い」のうちにあるに決まっている。
- B 僕たちはすでに心を持っていて、現に心が機能しているシステムを使って思考したり、感じたりしている。
- C だとすると、「不惑」というのはどうも僕たちが理解しているのとは意味が違ούνじゃないか、と。
- D 安田登さんと「心の話」をしたのは、『論語』にある「四十而不惑」という句の解釈について話していたときのことです。「我十有五にして学に志し、三十にして立つ」というあれです。
- E ですから、心がない時代、心が機能していなかったときに、人間はどんなふうにものを考え、感じたのか、世界はどんなふうに見えていたのか、想像的に追体験するのは不可能とは言わないまでも、かなり難しい仕事です。
- F そのなかに「四十にして惑わず」という言葉があります。この「四十にして惑わず」という句を僕たちは「人間も四十歳になったら腹が決まってきて、もうあまり迷うことがなくなる」というふうに通俗的には解釈しています。

問題は「惑」に含まれている「心」なんです。中国の古代文字の研究者でもある安田さんの説によりますと、『論語』の時代には「心」という語はまだなかったのだそうです。だから、これは本来「惑」じゃなくて、「或」と書かれていたはずである、と。「不惑」じゃなくて「不或」。「或」の原義は「戈をもって口、すなわち城郭を守る。國はさらに口を加えた形。或を國の意に用いる。或、域、國はもとは一字」と白川静先生の『字通』にはあります。

要するに、「或」というのは周りをきびしく城壁で囲って閉じこもった状態をいうわけですね。ということは、「四十にして不或」ということになると、「この句の意味はまったく逆になってしまいます。四十になったら、自分の檻を破って、「人間とはこう

いうものだ、世の中というのはこういうものだ」という思い込みを離れよ、と。孔子はそう教えていたことになります。「惑わず」どころじゃない。自分がそこに囚われている（ X ）を捨てよ。それが人間四十歳のときの課題である。そういうことですね。自分で作った限界を超えてブレイクスルーすること、それが「不或」の本来の意味ではないかという、驚嘆すべき解釈を安田さんにうかがいました。それを聞いて、確かにそうだよなと得心した記憶があります。確かに安田さんの解釈の方が『論語』の読み方としては筋が通っている。十年後が「知命」であるなら、その前の十年はいろいろ試行錯誤するはずですから。

〔内田樹 釈徹宗『日本靈性論』より〕

問1 文中の□内のA～Fの記述を正しく並べ替えると意味の通った文章になる。その順番として最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。 □ 6

- ① B—D—F—A—C—E
- ② B—E—A—D—C—F
- ③ B—E—D—F—A—C
- ④ D—F—A—E—B—C
- ⑤ D—F—C—A—B—E

問2 下線部アに「心という語はまだなかった」とあるが、その理由として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。 □ 7

- ① 心という概念をまだ獲得していなかったから。
- ② 心という語は『論語』の成立した後にできたから。
- ③ 中国では文字の成立が遅かったから。
- ④ 最初にできた文字は象形文字で字画が多かったから。
- ⑤ 心という概念が孔子に認識されていなかったから。

問3 下線部イに「この句の意味はまったく逆になってしまいます」とあるが、その具体的内容として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① 「不或」であれば、城壁に閉じこもった状態だが、「不惑」であれば自分の檻を破れということになる。
- ② 「不或」であれば、自分の檻を破れということだが、「不惑」であれば腹をくぐれということになる。
- ③ 「不惑」であれば迷わないが、「不或」であれば天命を知ることが大事ということになる。
- ④ 「不惑」であれば迷わないが、「不或」であれば試行錯誤することになるということ。
- ⑤ 「不惑」であれば課題は達成しているが、「不或」であれば今後も課題があるということ。

問4 空欄（ X ）に当てはめるべき語句として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① 社会的地位
- ② 私利私欲
- ③ 利己心
- ④ 完璧主義
- ⑤ 固定観念

問5 本文の内容に合致しているものとして、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。 

10
----

- ① 「心」という概念が生まれたのは、最近の心理学の発達によるところが大きい。
- ② 心がない時代に、人間がどのようにものを考えていたかを知るのは、かなり難しい。
- ③ 現在は「四十而不惑」を人間も四十歳になったら、あまり迷うことがなくなると解釈する人はいない。
- ④ 人間は、四十歳となったならば、思い込みを離れるということを、必ず課題としなければならない。
- ⑤ 「四十而不惑」を「四十而不或」と書いてみることで、自分の限界を超えることができる。

〔3〕次の文章を読んで、後の問に答えよ。 11 ～ 15

人間が自然をどう見るか、大森の考え方のキーワードがあります。「略画的」な見方と「密画的」な見方です。

日常、自分の眼で物を見、耳で音を聞き、手で触れ、舌で味わうという形で外界と接している時に私たちが描く世界像を、大森は「<sup>ア</sup>略画的」と呼びます。

それに対して、近代科学が生まれたことにより可能になった世界像の描き方を、大森は「密画的」と呼んでいます。「密画」は、ここでは、可能な限り最小の単位まで還元し、分析的にも物を見ていく見方を指しています。基本的に科学は密画を描くものであり、世界を密画化していくというのが大森の考え方です。

近代以降、人間の世界観は略画的世界から密画的世界へと変化してきました。今では密画的な見方こそ進歩を支える源だと信じる社会になっています。( X )、密画的世界のみを追い求める現代の科学技術社会はどう見ても問題があると多くの人が考えていることも事実です。どこに問題があるのかを適確に捉え、それを直していかなければなりません。

私は、問題は二つあると考えています。一つは、大森が指摘する密画化によるすべてのものの死物化であり、もう一つは、密画化のみが進んだ正しい見方であるとして、略画的見方、より平たく言うなら ( Y ) を否定することです。

ここで、まず細密化が進んだのが遠い天体であり、次いで体の中という小さな世界であるということに注目したいと思います。直接接触することのできない世界、日常のスケールから見るととてつもなく大きかったり小さかったりする世界が細密化、科学化には向いているのです。ガリレイ以来 300 年以上、科学が急速に進むにつれて、分析対象はどんどん小さな世界に入っていました。物理学では原子を超えて陽子・電子・中性子、そして今ではクォーク・ニュートリノと、日常とはかけ離れた小さな世界が対象になっています。

- A そしてここでの科学は、ガリレイとデカルトの考え方に縛られています。
- B 色や音や匂いや手触りなどは主観的なものであり、細密描写の対象ではない」のであって、これこそ科学であるとされるのです。
- C このように科学が日常のスケールではないところで進みやすく、日常は語りにくいということには注意を向けてよいのではないのでしょうか。
- D つまり、「細密描写は世界の客観的描写であり、形と位置とその時間的変動、つまり幾何学と運動学で語られるものである。
- E こうした細密化においては、日常の感覚とは別の次元で分析が進められ、それが科学化という言葉で正当化されることによって、急速に進んでいくのです。

ここで語られているのは、明確な主客二元論です。ガリレイのみならず、近代以降の科学は、明らかに二元論に拠って立ってきました。近代科学の思想を明確に示したデカルトは、形や運動を客観に、色や音などの感覚的性質を主観の例に分けました。そして科学は「客観」を追究すべきだとしてきました。

そして大森は、これこそが「死物化」だと言っているのです。ガリレイやデカルトに従えば、客観的でなければならない、理性で到達できないものは語ってはいけな  
いと言われ、大森の言う死物で自然を説明することが科学的であるということになります。

客観的な科学的思考を進んだものとして、それだけで考えると、色や音や匂いや手触りという日常生活ではとても大事なものを扱うことができないことになり、そのような考え方で暮らさなければならなくなります。客観的であること、主観は扱わないことというのが科学の約束事ですから。そして幾何学的な形と運動変化だけで世界を捉えようというのですからまさに死物です。

大森はこの考え方で進めた科学が自然を死物化し、その中で人体まで死物化しただけでなく、心を居所不明、つまりどこにあるかわからないものにしてしまったと言  
い、このまま進むのは間違っていると指摘します。ガリレイから 400 年、科学研究は進  
みましたけれど、基本は変わっていません。

\*本文は一部原本を省略している。

〔中村桂子『科学者が人間であること』より〕

問1 次に挙げた事例 a～dのうち、下線部ア「略画的」の具体例として、適切なものを全て選んでいるのはどれか。①～⑤より1つ選べ。 11

- a 雌チョウの脚の先を顕微鏡で見、感覚毛を見つけること。
- b チョウが花から花へと飛びまわる姿を楽しむこと。
- c ある遺伝子のDNAを同定して、産卵行動のメカニズムを研究すること。
- d チョウが葉の裏に卵を産む様子を毎日、観察すること。

- ① a、b、c
- ② a、b、d
- ③ b、c
- ④ b、d
- ⑤ b

問2 空欄（ X ）に当てはめるべき語句として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① なぜなら
- ② しかし
- ③ ところで
- ④ そもそも
- ⑤ たとえば

問3 空欄（ Y ）に当てはめるべき語句として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① 具体的な見方
- ② 抽象的な見方
- ③ 科学的な見方
- ④ 物理的な見方
- ⑤ 日常的な見方

問4 文中の  内のA～Eの記述を正しく並べ替えると意味の通った文章になる。その順番として最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① A—C—B—E—D
- ② A—D—C—B—E
- ③ B—A—D—E—C
- ④ C—E—A—D—B
- ⑤ C—D—B—E—A

問5 下線部イに「死物化」とあるが、この具体的説明として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。 

15
----

- ① 科学が世界を形や運動でとらえるだけで、色や音などの日常生活で大事なものを取り扱わないこと。
- ② 科学が陽子や電子といった、生命をもたないものを対象としていること。
- ③ 科学が直接には触れることができない、密画的世界を対象としていること。
- ④ 科学が二元論をとることによって、主観と客観が分かれたということ。
- ⑤ 科学が進歩することによって、死というものが遠くなったということ。

〔4〕次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 16 ～ 20

わたしたちの身体経験はさまざまな断片のアラベスクのようなものである。見るにしろ、触れるにしろ、内から突き上げられるにしろ、わたしたちはじぶんの身体にかんしてはつねに部分的な経験しか可能ではないので、そういうばらばらの身体知覚は、ある一つの（ X ）な身体イメージを繋ぎ目としてたがいに連結されることではじめて、あるまとまった身体として了解されるといえる。わたしたちのからだは穴だらけ、隙間だらけであって、そのことが「わたしの身体」というこの幻影ともいべき〈像〉<sup>イメージ</sup>を、じぶんという存在の蝶番<sup>ちょうつがい</sup>のようなものとしてたぐりよせるわけだ。

そこから、そのつどの断片的な身体経験を一つの〈像〉へと縫い上げるために、そしてそれによってじぶんの存在の同一性を確定するために、わたしたちの日常の行為の多くが割かれていることに気づかされる。化粧や装飾、身体変工、刺青、自傷などの習俗や行為も、この〈像〉の、はてしなき切断と再縫合の試みとして解する可能性が出てくる。そのつどこの〈像〉は不安定に揺らいだままだからである。なかでも、着衣という習慣。想像された自己の〈像〉こそがわたしたちが身にまとう最初の衣服であると考えれば、衣服はもはやわたしたちの存在の被いではないことになる。（ Y ）、わたしたちの存在の継ぎ目ないしは蝶番とでもいべきもの、いやもっと直截に、身体はまずは衣服であるといいうることになる。この〈像〉としての身体こそが〈わたし〉が身にまとう最初の衣服であるからこそ、わたしたち人間は、繊維を編みだすよりもはるか以前から、皮膚をまるで布地のように裂いたり、引っかいたり、あるいは皮膚に線を引いたり、顔料を塗ったり、異物を埋め込んだりしてきたのだ、と。

〈像〉としての身体の脆弱さのゆえに、あるいはこの〈わたし〉の存在と〈像〉としてのその身体とのあいだに発生する乖離や齟齬のゆえに、ひとはそれを埋めようと、身体の表面にたえず介入してきたといえることすれば、そこからふだんはとくに問うこともない無数の問いが浮上してくる。たとえば、身分証明書用のじぶんのポートレート写真やテープに録音されたじぶんの話し声など、じぶんのフィジカルな姿を突きつけられたときに、「なぜ強い、しかも否定的な情動が覚醒されるのか？なぜ身体に秘密の場所、あるいは目のやり場に困るような場所が存在するのか？わたしたちはなぜ「自然」のままの身体に充足できないのか？人びとが武道や修行や養生で鍛えようとしてきたのは身体のどのようなはたらきなのか？さらには病とは何か？性とは何か？そもそも「からだ」と「体」と「身」にどのような違いがあるのか？追いだすと切りのないこれら無数の問題はどうもみな、「わたしの身体」というものが、わたし自身にとってもっとも身近な（ Z ）であるという事実から発生しているようなのだ。

\*本文は一部原本を省略している。

〔鷲田清一「哲学の使い方」より〕

問1 空欄（ X ）に当てはめるべき語句として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① 断片的
- ② 全体的
- ③ 個別的
- ④ 想像的
- ⑤ 具体的

問2 空欄（ Y ）に当てはめるべき語句として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① それはむしろ
- ② しかしながら
- ③ それはつまり
- ④ というのも
- ⑤ たとえば

問3 下線部アに「この〈像〉は不安定に揺らいだままだからである」とあるが、その理由として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① 化粧や装飾は、一時的なものであり、自分が自分の身体を肯定しないかぎり、自分の存在の同一性が確定できないから。
- ② わたしの身体は、トータルには不可視なものであり、〈像〉としてしかとらえることができないから。
- ③ 他人から承認してもらふことなしには、わたしたちは自分の身体を肯定的にとらえることができないから。
- ④ 自分の存在の同一性を確定するためには、他人とは違った〈像〉をもつことが必要だから。
- ⑤ わたしの身体に化粧や装飾をしたとしても、それを落としてしまえば、もとの自然のままの姿になるから。

問4 下線部イに「なぜ強い、しかも否定的な情動が覚醒されるのか」とあるが、その理由として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① もっとこうすればよかったという後悔の念にかられるから。
- ② うまく自己の〈像〉を形成できていなかったことがわかるから。
- ③ 自分自身で想像した自己の〈像〉と実際の身体との間に乖離があるから。
- ④ 身体とはフィジカルなものではなく、想像上の〈像〉であるべきものだから。
- ⑤ 身体の部分的な姿によって、自分自身の全体が判断されることがあるから。

問5 空欄（ Z ）に当てはめるべき語句として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① 制御可能な領域
- ② 忌避すべき領域
- ③ 鍛えるべき領域
- ④ 親密な領域
- ⑤ 未知の領域

〔5〕次の文章を読んで、後の問に答えよ。 21 ～ 28

天気予報は当たらないとか、経済評論家の経済予測は当たらないというが、人間がやっているのだから、当たらないのは当然だ。経済予測が全部当たったら、市場が成立しなくなるから、経済そのものが破綻してしまう。

ある人は、自分のローカルなシステムで情報を収集し、自分なりの判断をして株は上がると予測する。一方、ある人は、別のローカルなシステムで情報を収集し、自分なりに判断して株は下がると予測する。株が上がるという予測と下がるという予測があるからこそ、株式の売り買いが成立し、株式市場は正常に機能する。

すべての人が株は永遠に上がり続けると思ったから、バブルが起きそしてはじけたのだ。市場そのものが「疑似決定論的なシステムに支配され、生きたシステムから死んだシステムに近づいたわけだから、市場が破綻するのは当たり前だった。

あるところである人が、このように動くに違いないと予測を立てる。一方、別のところで別の人がそれとは別の予測を立てる。したがって、ローカルシステムの間での予測性の矛盾が必ず生じる。

その矛盾が全体のシステムを動かす。そうすると、さらに別のところで矛盾が生じる。それがまたさらにシステムを動かす。生きているシステムというのは、無限矛盾繰り込みシステムのようなものだ。それが我々が生きていることの実相で、全部決定論的になってしまったら、生きているとはいえなくなる。

本当は未来は予測できない。しかし、それにもかかわらず、人間は何とか世界を予測したいと考える矛盾した存在だ。

それは、一つには、人間の言葉と関係があるだろう。

言葉というのは差異と同一性のシステムだ。我々は必ず同一性で世界を切る。完璧な同一性というのは、不変で普遍、つまりインバリエント (invariant) でユニバーサル (universal) な存在であり、原子などの物質や万有引力の法則などの「普遍法則」をそういったものの例だと人々は考えている。

しかし、( X )。そういったものも、実は、我々が恣意的に世界を分節し、それで世界を解釈するのにとりあえず都合がいい恣意的な同一性にすぎないのである。

昔の人は、神が世界をつくったと考えていた。周りが皆、神が世界をつくったと考えていたので、何の疑いもなくそういうふう考えた。現在の神は科学なので、人々は、水は  $H_2O$  だと信じている。 $H_2O$  は、インバリエントでユニバーサルな存在だと何の疑いもなく信じているが、それが本当かどうかわからない。(a)

物理学者の佐藤文隆は、電子にはひげが生えている電子と生えていない電子があるかもしれないという話をしている。電子は一個一個違うかもしれないという可能性を現在の科学は排除しきれていないということだ。(b)

我々は、電子はインバリエントでユニバーサルな存在だと決めて理論をつくってい

る。なぜそういうことが可能かという、我々には電子や原子が見えないからである。

(c) 装置や機械を使ってしか見えない。(d)

ところが、その装置や機械は、電子や原子はインバリアントでユニバーサルなものだということを前提にしてつくられている。したがって、その装置を使って見る限り、電子はユニバーサルでインバリアントなものだという以外の帰結にはなり得ない。

(e)

ライプニッツは「すべての個物は違う」といった。我々が自分の<sup>ナイーブ</sup>素朴な感覚で見るすべての個物は確かに違う。犬がそれぞれ皆違うのはだれでもわかる。もし水素が個物だとすれば、ライプニッツに従う限り、それはすべて違うはずだ。

( Y )、我々はそれを同じだと思っている。それは、我々の<sup>ナイーブ</sup>素朴な感覚では水素の違いをとらえられないからだ。装置はすでに同一性を組み込まれた存在である。あらかじめ同じだと思って調べれば同じになるほかはない。

物質の同一性といえども、実は恣意的な同一性でくくっているにすぎないのかもしれない。火星の H<sub>2</sub>O も、地球の H<sub>2</sub>O も、パリの H<sub>2</sub>O も、水道水の H<sub>2</sub>O も、ミネラルウォーターの H<sub>2</sub>O も、H<sub>2</sub>O は皆同じだと我々は思っているが、実は同じでないかもしれないのだ。

人間が小さくなって血管のなかに入り込み、水の分子を見れば、みんな違って見えるかもしれない。地球ぐらい大きい宇宙人がやってきて人間を見たら、みんな同じに見えるかもしれない。

ナイーブな感覚で差異が識別できなければ全部同じであるとしても、話はべつに矛盾しない。だから H<sub>2</sub>O がインバリアントでユニバーサルな存在だというのは、科学者世界で共有されている一種の ( Z ) だと思えばよい。

我々の世界では、たとえばイヌは何を指すかという約束事がある。それを外れて、ネコを引っ張ってきて「イヌ」といったり、イヌを引っ張ってきて「ネコ」といったり、正気の人とは見なされない。ただ、そういう約束はほとんどすべて恣意的なものだ。

人間は世界をある同一性と差異性に分けずにはいられない存在である。しかし、その分け方に根拠はない。これはソシュールが提示したもっとも重要なテーゼである。このテーゼは、法則についても物質についてもあてはまる。

ところが、十九世紀から二十世紀にかけて科学が発達し、科学は役立つもの、正しいものと考えようになって以来、人々は、科学がつくった恣意的な同一性を真理だと勘違いするようになった。

科学というのは、科学者社会によって承認され、社会もまたそれを真に受けている約束事だが、真理であるかどうかはわからない。その意味で、科学は、ある程度先進国の普通の教育を受けた人が信じている文化と伝統のようなもので、それはいつ恣意的に変わるかわからない。

<sup>1</sup>同一性というのは、自分だけが信じていてもどうしようもない。世界とまったく違う同一性を信じている人は、この世界では正気の人とは見なされない。同一性を他人と共有する、要するにコミュニケーションを可能にすることによって、はじめて言葉は通じ、はじめて理論なり法則になるが、この同一性は恣意的な分節によって成り立っていることは間違いない。したがって、これらはすべて仮説であり、「法則」というよりもむしろ「構造」というべきものだと私は考える。

構造主義進化論の理論ももちろんその一つである。これは歴史も同じだ。我々は適当な時代区分をして歴史を記述する。その記述の仕方に必然性はない。

恣意的に歴史を区分して、それが現在受け入れられているのは、人々が、現在から見て歴史をそのように見るのが一番まっとうらしいと、( Z )として信じているからにはほかならない。だから、社会が大きく変われば、歴史区分の記述も変わるに違いない。

\*本文は一部原本を省略している。

[池田清彦『構造主義進化論入門』より]

問1 下線部アに「疑似決定論的なシステムに支配され、生きたシステムから死んだシステムに近づいた」とあるが、この具体的説明をしている下記の文章の空欄( I )、( II )に当てはまる語句の組合せとして、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。 21

生きているシステムとは、その内部に生じる( I )によって動かされているシステムであるが、株が永遠に上がり続けるという( II )によってシステムが支配されたことにより、内部の( I )が消滅し、市場というシステムが生きたシステムから死んだシステムに近づいた。

- |   | I  | II  |
|---|----|-----|
| ① | 矛盾 | 決定論 |
| ② | 矛盾 | 法則  |
| ③ | 矛盾 | 幻想  |
| ④ | 実相 | 決定論 |
| ⑤ | 実相 | 幻想  |

問2 空欄（ X ）に当てはめるべき文章として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① 科学というものは日々進化する
- ② それらの中にも矛盾が存在する
- ③ それを絶対の真理だと考える必要はない
- ④ それらは現在では科学者にも承認されていない
- ⑤ それらにも異なる部分が存在する

問3 文中の空欄（ a ）～（ e ）のどこかに次の文が入る。これを挿入するのに最も適切な箇所はどれか。①～⑤より1つ選べ。

昔、放射性同位元素を認知する機械がなく、別な化学的なはかり方をしていたときは、放射性同位元素であろうと何であろうと元素は元素として認知されるほかなかった。

- ① （ a ）
- ② （ b ）
- ③ （ c ）
- ④ （ d ）
- ⑤ （ e ）

問4 空欄（ Y ）に当てはめるべき語句として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

- ① しかし
- ② そして
- ③ また
- ④ だから
- ⑤ つまり

問5 空欄（ Z ）には同一の語句が入る。空欄（ Z ）に当てはめるべき語句として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。 25

- ① 普遍的真理
- ② 仮の姿
- ③ 机上の空論
- ④ 理想論
- ⑤ 共同幻想

問6 下線部イに「同一性というのは、自分だけが信じていてもどうしようもない」とあるが、その理由として、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。 26

- ① 同一性は科学がつくった恣意的な分節によってなりたっているから。
- ② 同一性は他人と共有することによってはじめて理論なり法則となるから。
- ③ 世界とまったく違う同一性は、科学的であるとみなされないから。
- ④ 世界とまったく違う同一性を信じていると正気の人とみなされないから。
- ⑤ 同一性は信じることではなく、科学的であるかどうかによって決まるから。

問7 下線部ウに「だから、社会が大きく変われば、歴史区分の記述も変わるに違いない」とあるが、その理由を説明している下記の文章の空欄（ I ）、（ II ）に当てはまる語句の組合せとして、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。

27

歴史区分は現在の人々がそのように見るのが一番まっとうらしいと信じている（ I ）であり、そのような（ I ）を支えている（ II ）が変われば、（ I ）も変わると考えられるから。

- | I     | II  |
|-------|-----|
| ① 真 理 | 構 造 |
| ② 真 理 | 科 学 |
| ③ 科 学 | 構 造 |
| ④ 仮 説 | 科 学 |
| ⑤ 仮 説 | 構 造 |

問8 本文の内容に合致しているものとして、最も適切なものはどれか。①～⑤より1つ選べ。 

28
----

- ① 原子などの物質や万有引力の法則などは、不変で普遍的な法則であるがゆえに、科学的な真理である。
- ② 現在において、水は $H_2O$ であって、 $H_2O$ はインバリアントでユニバーサルな存在であるということは絶対である。
- ③ 装置というものは、それを測定するものの同一性が組み込まれているため、測定するものの差異を見いだすことはできない。
- ④ 電子にはひげが生えている電子と生えていない電子があると主張することは、科学的ではない。
- ⑤ 科学とは、ある程度先進国の普通の教育を受けた人が信じている真理であり、今後も普遍的なものとして存在し続ける。

－数学の問題は次頁より始まる－

## 数学

〔1〕 次の計算をせよ。

$$(1) \quad (-4)^2 \div \frac{2}{3} - (-2^2) = \boxed{29} \boxed{30}$$

$$(2) \quad (\sqrt{3}-\sqrt{2})^2 + (\sqrt{3}+3\sqrt{2}) \times \frac{1}{\sqrt{3}+\sqrt{2}} = \boxed{31}$$

〔2〕  $\frac{1}{2}\log_5 \frac{25}{9} - 2\log_5 \frac{\sqrt{35}}{5} - \log_5 \frac{15}{7}$  を整理すると、 $\log_5 \frac{\boxed{32}}{\boxed{33}}$  となる。

〔3〕  $3\log_5 3$ 、 $3\log_3 5$ 、 $5$  を不等号  $<$  を用いて、右側が大きな値になるように並べると、 $\boxed{34}$  となる。 $\boxed{34}$  にあてはまるものを、①～⑥のうちから1つ選べ。

- ①  $3\log_5 3 < 3\log_3 5 < 5$
- ②  $3\log_5 3 < 5 < 3\log_3 5$
- ③  $3\log_3 5 < 3\log_5 3 < 5$
- ④  $3\log_3 5 < 5 < 3\log_5 3$
- ⑤  $5 < 3\log_5 3 < 3\log_3 5$
- ⑥  $5 < 3\log_3 5 < 3\log_5 3$



[4]  $0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$  のとき、 $\cos \theta = \frac{40}{41}$  とする。このとき、 $\tan \theta = \frac{\boxed{35}}{\boxed{36} \boxed{37}}$  である。

[5] 594 に自然数 A を掛けると、ある自然数の 2 乗となる。自然数 A として考えられる最も小さい数は  $\boxed{38} \boxed{39}$  である。

[6] ある川の上流にある A 地点と下流にある B 地点間の距離は 8km である。AB 間を往復する観光遊覧船が運航しており、A 地点から B 地点へ向かうときにかかる時間は 40 分で、B 地点から A 地点に向かうときにかかる時間は 80 分であった。このとき、この川の流れの速さは時速  $\boxed{40}$  km である。ただし、静水時の観光遊覧船の速度および川の流れの速さは常に一定であるとする。

[7] 赤球 4 個、白球 1 個が入った袋 A と赤球 2 個、白球 4 個が入った袋 B がある。これらの袋からそれぞれ 1 個ずつ球を取り出したとき、取り出した球が赤色と白色の球が 1 個ずつとなる確率は  $\frac{\boxed{41}}{\boxed{42}}$  である。

[8] ある容器に濃度 6% の食塩水が 500g 入っている。この容器から水を 100g 蒸発させたところへ、濃度 14% の食塩水を 100g 入れたところ、容器内の食塩水の濃度は  $\boxed{43} \boxed{44}$  % となった。



〔9〕ある10人のグループで、5点満点のゲームを行ったところ、次の表のような結果になった。

点数	0点	1点	2点	3点	4点	5点
人数	2人	2人	3人	1人	1人	1人

- (1)  $n$  個のデータ  $x_1, x_2, \dots, x_n$  があるとき、 $\bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i = \frac{1}{n} (x_1 + x_2 + \dots + x_n)$  を平均という。与えられた10人の点数について平均を求めると  点となる。
- (2)  $n$  個のデータ  $x_1, x_2, \dots, x_n$  があるとき、 $\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2$  を分散という。(1)で求めた平均の値を用いて与えられた10人の点数について分散を求めると   点となる。ただし、 $\sum_{i=1}^n x_i^2 = x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2$  である。

言語聴覚学科 国語・数学 正答

問題番号		正答	問題番号		正答	
〔1〕	1	3	[No. 1]	29	2	
	2	5		30	※	8
	3	2		31		2
	4	3	[No. 2]	32		5
	5	1		33	※	9
〔2〕	6	3	[No. 3]	34	1	
	7	1	[No. 4]	35	9	
	8	4		36	※	4
	9	5		37		0
	10	2	[No. 5]	38	6	
〔3〕	11	4		39	※	6
	12	2	[No. 6]	40	3	
	13	5	[No. 7]	41	3	
	14	4		42	※	5
	15	1	[No. 8]	43	8	
〔4〕	16	4		44	※	8
	17	1	[No. 9]	45	2	
	18	2		46	2	
	19	3		47	※	4
	20	5				
〔5〕	21	1				
	22	3				
	23	5				
	24	1				
	25	5				
	26	2				
	27	5				
	28	3				

※：すべて正解の場合のみ得点とする。